

社会福祉法人 小樽育成院 運営理念

### 基本的人権の確保と擁護

~人間を大切にするサービスの提供~

利用者様の自立した生活を支援するためのサービスを提供します。

利用者様の生活と生き方を尊重したサービスを提供します。

利用者様中心のサービスを 提供します。



### 発行/ 社会福祉法人 小樽育成院

〒048-2671 小樽市オタモイ1丁目20番18号 TEL: (0134) 28-2500 (代) FAX: (0134) 26-2476 URL: http://www.otaru-ikuseiin.com **育成院 核** 

### **仏報活動** O) 取組 み

るに至りました。 報誌「えがお」も、今号をもって51回を数えて発行してきた社会福祉法人小樽育成院の広地域への情報公開の取組みとして、先駆け

もと、 地域福祉の推進に努めています。 の透明性を図り、関係機関との連携・協議の提供する福祉サービスの質の向上と事業運営 もとに適正な法人運営を行 業活動を行うとともに、 い手として、 社会福祉法人は、 地域における公益的な活動などにより 地域住民の期待に応えるよう事 社会福祉事業の主たる担 公益性、 います。 す。加えて、 非営利性の

のため、 ツ 目線に立ったわかりやすい事業活動や財務等 に関する情報を公表する必要があります。 していくことが求められています。 また、 ルを効果的に活用し、 地域にあっての法人なので、 広報誌やホ ムページなどの広報 幅広く情報を発信 住民の そ

ります。 報媒体による事業運営の積極的な情報発信に 域住民から信任を得られるように、 当法人では、今後も福祉の担い手として地 積極的に地域貢献に取り組んでまいりま 引き続き事業運営の透明性の向上を図 さらに、オタモイ唐門祭り、盆踊り・ 法人町会合同防災訓練などを通し 各種の情

### 養護老人ホ

特別養護老人木

### 小樽育成院

**TEL(0134)26-0162** 小樽市オタモイ1丁目20番20号

思い思いのクラブ活動に参加して楽しんでいた在12のクラブが活動しています。利用者様には小樽育成院では介護予防の取組みとして、現 とわからなかったりします。 だいておりますが、それぞれの活動内容は意外

インフルエンザ集団感染の反省も含め、症の研修を実施しております。今年は、やすらぎ荘では毎年研修計画を作成し

集団感

昨年の

は毎年研修計画を作成し、

感染

TEL (0134)28-250 小樽市オタモイ1丁目2番18号

2 5 0

すらぎ荘

えがお Vol.51

介護福祉士を中心に講義と演習が行われま. 染の予防に焦点を当て、感染委員会の看護師

た。演習は「車椅子上で嘔吐した場合の処理」と、

フェアを開催しました。 もっと知ろう!』をテーマに施設内で介護予防 そこで、9月25日に『育成院のクラブ活動を

まで確認することができま.

した。

また、

より実践に近いテーマが設定され、

細かい動作

と「華道」の先生方による生け花を楽しませてずランティアの先生方には実演を行っていただボランティアの先生方には実演を行っていただが、「詩吟」「ハーモニカ」「リズム体操」の当日は各クラブの担当者が活動内容の紹介を さい ました。 でも紹介しておりますので、そちらをご覧くだ いただき、 詳細については当法人のホ 賑やかなイベントとすることができ ムペ

識することを再確認しました。

今後もこのような研修を重ね、

出さない、

広めない」という3点を普段から意

の知識・意識の向上、

利用者様が安心して暮ら

職員それぞれ

せる環境作りに努めていきます。

関わることが必要であり「持ち込まない、

持ち

ニットで終息できるように、私達職員が適切に

ケアという構造的特性を活かし、

ユ



介護予防フェアでの詩吟の先生による実演紹介

職員がモデルになって演技を実施

やサ

ていました。仁木のきのこ王国では、買い物を楽新鮮なネタにほとんどの皆様が残さず召し上がっ

解決と自立に向けた支援を行うものです。これ深め、ネットワークを通して利用者様の問題の〜」に参加いたしました。各機関との関係性を

介護連携一CT活用事業~おたるワンチー

域包括ビジョン協議会が行っている「在宅医療・

ためオタモイケアプランセンターも、

おたる地

ニア元気教室」が開催されています。

開催しており、北西部圏域では、現在7か所で「シ

リエーションなどを行う地域版介護予防教室を

トレッチ・筋力トレーニングなどの運動やレク

様の情報の共有・切れ目のない在宅医療と介護

おり、多くの職種が協力.

し、お一人の利用者

活用した地域包括ケアシステムの構築を進めて

近年、小樽市ではICT

(情報通信技術)

を

ンティア介護予防サポ

ティア介護予防サポーターが中心となり、ス小樽市では、高齢者を対象とした地域のボラ

サービスの提供が可能になってきました。この

何より利用者様が同じ目標に向かって各々の役

はご家族も参加できるので、関係機関とご家族、

割を果たすことができます。利用者様、

介護を

特別養護老人ホー

ンジかふえ

行うことで地域に向けて情報発信をしています。

また、毎月第2水曜日の10:30(

13

00まで

ついての情報収集、定期訪問の際に出前講座を

参加者や介護予防サポーターから地域の課題に予防サポーターと教室運営についての情報共有、

ターから地域の課題に

をして、体力測定での参加者の様子確認、

介護

当センターでは、各教室に年3回の定期訪問

すます安心して生活できるよう取り組んでまい されているご家族が住みなれた自宅や地域でま

民が認知症について学び気軽に相談ができるよ

わいわい店」を開催して、地域住

ムやすらぎ荘にて「小樽オ

う取り組んでいます

関係医療機関、

多職種のコミュニケ

ショ

なに食べられない」などの声が聞かれましたが、

・モンなどが飛び出している海鮮丼に「こん

しまれ、きのこ汁も食べられていました。

皆様から「楽しかったよ、また行きたいね」

なり、

お寿司屋さんと仁木のきのこ王国へ行くことと

事前に、利用者様から意向をお聞きし余市の

余市のお寿司屋さんでは、どんぶりからマグロり、3~4名の小グループで実施しました。

ら10月にかけて季節行事として「秋のドライブ」オタモイデイサービスセンターでは、9月か

TEL(0134)26

16

小樽市オタモイー丁目2番19号

ビスセンタ

ケアプランセンタ

**小樽市オタモイ1丁目2番18号(やすらぎ荘内)** 

タモイ

小樽市北西部

地域包括支援センタ

小樽市オタモイ1丁目2番18号(やすらぎ荘内)

TEL(0

134)28

を行いました。

用者様に、楽しんで参加していただけるよう、けて「餅つき会」や「クリスマス会」など、利意見が聞かれました。これから、年末年始に向や「家族におみやげが買えて良かった」などの

企画してまいります。

とても美味しいお寿司でした。

仁木のきのこ王国の前で、記念写真を撮りました。

いを見出せることと思います。

何かお困りのことがありましたら、

いつでも

族の安心はもちろん、関わるスタッフも地域の がスムーズに行われることで、利用者様やご家

一員として、よりよい支援が提供できるやりが

体力測定の様子

### 地震災害時の状況と今後の対策について

先の9月6日(木)に発生した北海道胆振東部地震により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。 災害時において福祉施設は「利用者様の安全を確保すること」が最大の役割です。安全が確保されたうえでさらに「利用者様に対してサ →ビスの提供を継続する」ことが重要です。また、社会福祉法人の公共性に鑑みて、災害時にそれぞれの事業所の機能を活かし地域へ貢献。 することも重要な役割であると考えております。

今回の地震を教訓に、現在法人では事業継続計画 (BCP) に基づき、福祉サービス提供の継続、災害に備えた体制の構築などの整備を 進めております。利用者様の生活への影響を最小限にとどめるとともに、地域から求められる社会福祉法人の機能を十分に発揮できるよ う努めてまいります。



オタモイデイサービスセンターでは、6日の震災時、停電の ため水道のポンプが止まってしまい、水が出なくなりました。 そのため、通常のお食事や入浴のサービスが提供できない状 況となりました。

その日の利用者様及び一人暮らしや老夫婦のご世帯の利用 者様に、電話をかけたり通じないお宅には訪問し安否確認を 行っています。

ご家族が仕事のため、利用者様がお一人になってしまうご 世帯や、不安を感じている利用者様を中心に受け入れをいたし ました。6日は3名、7日は2名の方をお受けしています。

ご利用された方からは、「電気もつかなく不安だったので、 利用してお話しできて良かった」「食べる物や飲み物もなかっ たので、助かった」などの声が聞かれました。

### オタモイケアプランセンター

オタモイケアプランセンターでは、地震による停電のため、 電話がほとんど繋がりませんでした(まれに携帯電話は繋がっ たのですが)。地震当日は主に市内にお身内のないお一人暮ら しの利用者様の安否確認のため、ご自宅にも訪問いたしまし た。デイサービスやショートステイをご利用予定の方々は各事 業所が安否確認をしてくださっており、関係機関と協力するこ とで午前中のうちに、利用者様全員の安否を確認することが できました。

炊飯ができず、買い物もままならない利用者様には訪問介 護事業所がおにぎりを作って訪問してくださいました。特殊寝 台を利用している利用者様はギャッジアップ機能やベッドの高 さを変える機能が使用できず、エアマットについては圧の調整 ができないため、必要時は福祉用具貸与事業所が訪問されま

その他、ケアマネジャーは併設施設の配膳や買い物、ガソリ ン給油等について、適宜実施いたしました。

### 小樽市北西部地域包括支援センター

地域包括支援センターでは、地震発生当日の9月6日から 電力が復旧した8日までに、一人暮らしなど優先度が高い方に ついて、電話での安否確認70件、訪問による安否確認127件 を行っています。

また、停電によるスーパーやコンビニの閉店などで、食料や飲 料水を確保できない方がおり、当法人が用意した菓子やペット ボトル飲料を訪問の際に手渡すなどの対応をしました。

課題としては、停電により電話が不通となり利用者様や介 護サービス事業所との情報共有が困難になったことや、市内 の状況を確認できる手段が職員私物のラジオしかなかったこ とが挙げられます。

これを機に、災害時の安否確認対応マニュアルを改訂する とともに、電池や懐中電灯などの備品を購入し、再び起こるか もしれない災害に対応できるよう備えています。



売店から食料や電池を提供



やすらぎ荘に備えられている自家発電機



自販機のジュースは居宅利用者様へ提供

### 養護老人ホーム小樽育成院

小樽育成院では地震によりほどなく停電し、非常発電機も 故障したため断水に見舞われました。当時5名の職員がおりま したが、自宅から駆けつけた職員も加わり、暗い館内を手分け して入居者181名の安否を確認して回りました。「大丈夫です か?」と声をかけると、「どうなるの?」と不安な表情で聞いて こられる方もいれば、「大丈夫よ」と気丈に応えられる方もお り、精神力の強さに感心させられる場面もありました。

次にトイレ環境の整備が課題でした。停電でトイレに水を 供給できないため、2階浴室の溜め湯をバケツに入れトイレ に運び、用を足したあとに流してもらうようにしました。ところ が、少しの水では流れず、途中から使用済みペーパー専用の入 れ物も用意し対応しました。水が出るまで、バケツを持ちなが らの階段の昇降には苦慮しました。

また、食事の提供も心配されましたが、幸い、ガスは使用可 能、米もあり、水もやすらぎ荘からポリタンクに入れ運ぶこと ができたため、食事の提供は可能でした。しかし、おかずが2 日分の備蓄しかなく、職員が買い出しに出て食材の確保にあ たりました。

今回の地震は暖かい時期であり、ガスや水が使えたことで食 事の提供に支障をきたすことがありませんでしたが、これが冬 期間であったら状況はもっと深刻だったでしょう。現在育成院 では、寒さ対策や食品の備蓄などの対策を進めております。い つどこにおいても大規模災害に見舞われるかわからない現在、 入居している皆様の安全を第一に、職員一丸となって取り組ん でまいりたいと思います。

### 特別養護老人ホームやすらぎ荘

6日未明に道内を襲った強い地震で、小樽地区も同様に住 民生活は混乱しました。停電により小樽の一部は断水に見舞 われた地域もあったようです。

やすらぎ荘の状況としましては、入居・ショートステイの方 で怪我をされた方、体調を崩された方はいませんでした。あの 真っ暗な中、介護職員がランタン片手に走り回り、利用者様の 安全確保に徹した姿には頭が下がります。

設備関係では停電直後に自家発電装置が作動し、1階わい わい広場は非常電源が確保され、ラジオでの情報収集、電気 ポットによるお湯の供給、携帯電話の充電、水の供給などは

可能な状況でした。このような中、施設で一番困ったのは停 電の影響でエレベーターや冷蔵庫などが使えなくなり、食材 の提供と調達、保存、食事の運搬など食に関連する調整でし た。厨房スタッフ、施設職員、他関係職員が総動員で対応して くれ、電気が復旧するまでの間なんとか無事に利用者様へ食 事提供することができました。

今回の地震と停電を教訓に、施設では日ごろから何を常備 しておくか、その備品を使える状況にしておくことなど、部署 間・組織として振り返り今後の備えを整備していく方針です。



冷凍庫にあったアイスは利用者様へ提供



電気ポット、携帯電話の充電



やすらぎ荘の貯水タンク

3

# 社会福祉法人の公益的な活動

育成院理事長)の福祉のしごと委員会は11月18日、おたる」(代表=福森和千代・社会福祉法人小樽「社会福祉法人懇話会しあわせネットワーク・ 「介護のしごと魅力アップ推進事業」の一環とし 人材が不足する中、このような取り組みは、 小樽にて初めてのイベントを開催しました。 の魅力や理解を深めてもらうため、 多くの市民に福祉のしごとに係る情報を発信しそ 道内各地で少しずつ広がりを見せています。 ウイングベイ 道 の 介護

のもと、 2 0 1 した。 た、その他にも様々なアトラクションが催されま ラが大集合して子どもたちを楽しませまし ~」と題して、 今回のイベントでは、 などが設けられるとともに、ご当地ゆるキャ 販売コー n小樽~こんなことも福祉だったんだ 多くの福祉団体や事業者等の参加 体験コー е ふ < 、しフェス 展示コー ま

した迫小樽市長も「ヘルパーをはじめとした福祉ば容易には実現しません。趣旨に賛同し当日参席は、多くの法人が結束し、その力を結集しなけれ

その力を結集しなけれ

このような社会福祉法人の公益的な大イベン

解ができたなどのご意見が寄せられました。

ごと」に対するイメージが変わったことや少し理

こうしたイベントの意義は大きい」とコメント

定着という大きな課題を抱える中で

ています。

人材確保・



開会でゆるキャラ大集合

た「種まき」の意味かの福祉人材不足に備えムのメンバーは、将来ントプロジェクトチー との魅力をアピ て世帯等に福祉の ら、特に子どもや子育 構成された若手のイベ市内の複数の法人で



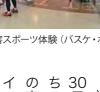
施設見学受入や出前授業

10月11日、

29 日

えがお Vol.51

5



障害スポーツ体験 (バスケ・ボッチャ) 日( ちろんボランティア等の様々な福祉に関する人材 前述の福祉のしごと委員会は、 11月8日の4日間にわたり、福祉人材はも

高校に出向き体験談などを中心に出前授業を実施 の育成を図ることを目的に、 しました。 人をしました。 イアップして高齢者施設や障がい者施設の見学受 また、 その結果、多くの生徒や先生から、 11月12日には、 若手の現場担当者が北照 小樽市内の高校と夕

ていました。以上に反響があったこともあり嬉しい悲鳴がもれ以上に反響があったこともあり嬉しい悲鳴がもれコーナーなど大盛況でした。メンバーからは予想るキャラが行くところに多くの人が集まり、体験たいとの思いで内容を企画しましたが、見事、ゆ



子どもも移乗体験





多くのギャラリー

存じでしょうか。 法人の敷地内に小樽育成院神社があることをご

えて10月4日に神社祭を行いました。おごそかな 住吉神社から分霊されたご神体が祭られています。 れたもので、 りましたが、 この神社において、 この神社は、 平成8年に現在の場所に建て替えら 今年で150年の歴史を有する小樽 元は裏山にある霊安殿の近くにあ 今年も住吉神社の神職を迎

雰囲気の中、

福森理事長から順に玉串を奉納

法人の発展と利用者様の安寧を祈願しま

### 神社前の人物胸像

ます。 小樽育成院神社の前に人物の胸像が建って

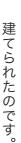
い

り、施設は老朽化していました。その地での改修・ 任しました。その当時の小樽育成院は奥沢にあ 務めた経歴を持つ人物で、 務めた及川芳蔵氏です。 その人物は、 増築の意見が多かった中、 小樽育成院の院長(施設長)を 同氏は小樽警察署長を 昭和32年に院長に就 同氏は広

た。 そして、 施設を建設し、 設費も同氏得意の粘りで捻出し、 衛隊に整地作業を行ってもらい、 末、 候補に挙がったのがオタモイです。 新築に適した土地を探し始めました。 大な土地に新築すべきであると考え、 たたえて昭和40年7月にこの胸像が することができました。その功績を 在地に鉄筋コンクリー して昭和36年8月から3年をかけ現 小樽育成院移転改築期成会を結成し、 土地を購入することができまし 1年がかりで自衛隊を説得し自 土地所有者と苦労の交渉の 昭和3年7月に移転 ト3階建ての

そ 建





樽市北西部地域包括支援センターの2施設3事 ビスセンター、 別養護老人ホ たのが同氏の功績によるところが大きいといえま 業所を経営しておりますが、その発展の礎を築い 当法人は現在、 オタモイケアプランセンター、 ムやすらぎ荘、 養護老人ホ オタモイデイサ ム小樽育成院、

小

特

あるとい 代の変化に伴い生ずる福祉ニーズに対応し、 域における福祉増進に努めてまいります。 及川氏のような先人達の努力があってこそ今が 法人は今年で創立120年となりましたが、 うことを改めて胸に刻み、 今後とも時







## 談フェア」を開

## 今年も多くの皆さんにお越しいただきました。

介護相談フェア」を開催しました。 回目となる「社会福祉法人小樽育成院 屋1階の公共広場において、今年で10 17日・18日の2日間、 社会福祉法人小樽育成院では、 小樽駅前の長崎 10 月

華やかに行いました。 場であり、たくさんの飾り付けをして 樽市内でも長年、市民の方々の憩いの 会場の長崎屋1階の公共広場は、

来場されました。 それでも2日間で 100 名以上の方が より少なかったように感じましたが、 来場者は、あいにくの悪天候で例年

フェアの内容は、パネル展示と介護

ム小樽育成院、 パネル展示については、養護老人ホー 特別養護老人ホームや





広場で行いました。

ターの展示として、小樽市認知症初期 たパネルと、小樽市地域包括支援セン ターの活動や居室内の様子を写真にし すらぎ荘、オタモイデイサービスセン 集中支援チームについての説明などの 、ネルを展示しました。

るよう長テーブルと椅子を用意しまし 料金に関するものが一番多くありまし 遣された計5名の職員により、2日間 談の内容としては、入所の待機状況や で約50名の方の相談に応じました。相 た。そして、各事業所から1名ずつ派 設け、ゆっくりとお話ししていただけ また、介護相談は、相談コーナーを

その他、 各事業所のパンフレットや



のご相談にお答えしました

介護相談フェア お迎えしました。

と考えております。 ことができるよう、企画していきたい 談に来られ、悩みの軽減や解決をする アを実施し、できるだけ多くの方が相 なども配布しました。 る介護保険」の冊子や「終活支援ノート」 小樽市から発行されている「よくわか 終わりになりますが、今後もこのフェ

ので注意していきたいものです。 感染症が流行る時期でもあります 葉が落ち冬の装いです。これから 雪が少ないものの、辺りは完全に くなる時期になりました。今年は 師走に入り、寒さが一段と厳し

るものがあると感じています。 の法人(施設・事業所)もそうで え、年3回発行してからは3年目 その内容や技術の進歩は目を見張 に入ります。広報誌の作成は、ど さて、広報誌は本号で51号を迎 情報社会の進化とともに、

当然読み手がいますので、何を伝 がちですので、写真やイラストを えようとすると文字ばかりになり られます。私たちの思いばかり伝 てみましょう。広報誌の発信は えるか明確にし、わかりやすい表 その事業の取り組みを幅広く地域 へ向けて伝えることにあります ここで広報誌の意味に目を向け

(N・M のつぶやき)

ていくよう精進していきます。